

こぼれ話 18

「百艸園」の額と青木角蔵

梅の名所として知られる京王百草園には、花の季節に都心から大勢の人が訪れます。百草園駅から急勾配の坂道を十五分ほど登りきった、小高い丘の上にあります。ここには江戸時代に松連寺という黄檗宗の寺があり、風光明媚な土地として観光の名所でしたが、明治の初めに廃寺となりました。この跡地を買い取って整備し、百草園（京王百草園の前身）として一般に公開したのが地元出身の生糸貿易商・青木角蔵です。

園内には松連庵と呼ばれるかやぶき屋根の建物があり、季節にはお蕎麦を食べたり、庭を眺めたりすることができます。

この建物に入ると、「百艸園」と書かれた額が目に入ります。明治二十年（1887年）四月の百草園開園の時に青木角蔵によって掲げられたものです。中国浙江省出身の書家、王仁爵によって書かれた「百艸園」の文字はいかにものびやか、墨痕は現在も輝きを放っています。



おうじんしやく
王仁爵書（京王百草園所蔵）